

## E-7 瀬戸内海島しょ部の生活環境に関する基礎調査

### 第1報 調査の概要

松山東電短大 ○大原早苗 広島女学院大短大 富士田亮子  
桃山学院短大 佐々木ひろみ 松山東電短大 山口幸恵

目的 社会経済情勢の変化に対応して、関係各省よりそれぞれの広域生活圏構想が打ち出され、行政区域を越えた長期的かつ総合的な開発の必要性が強調されている。このことは瀬戸内海島しょ部においても例外ではなく、1968年建設省の瀬戸内海地域大規模開発計画案が、そのマスタープランとして打ち出された。特に瀬戸内海大橋（尾道-今治ルート）架橋の主たる意義と効果は、西瀬戸内海広域経済圏の形成と離島性の解消にあるといわれている。しかし問題は、こうした開発計画が、地域住民にとって、一体いかなる意味をもつかが問われなければならない。

そこで本研究は、今後の生活環境条件の整備や住民福祉の向上に資する目的で、島民の日常生活圏や行動範囲の変容、また住環境に対する意識や住要求などを把握する為に、今尾ルート架橋計画地点の六島（以下架橋島と呼ぶ）を対象に、住民サイト、生活サイトの調査と計画した。尚、今回はそのうち大三島においてプリテストとした結果の報告がある。

方法 調査方法は以下の三つである。①関係市町の既存資料の整理②生活関連施設等の聴き取り調査③地域住民に対するアンケート調査（配布数658部、回収数534部）

結果 大三島は行政的には大三島町と上浦町に分かれ、13地区の集落より成る。生活圏及び環境評価は地区別に大きな特性がみられるので、詳しく次報より報告する。